

- 巻頭言 / 年頭にあたってのご挨拶・代表理事 酒井 康雄 … P1
- 関係機関の皆様より、年頭のご挨拶 … P2
- 第2回理事会 / 第3回ブロック長会議の開催結果 / 2021年度自動車リサイクル士の合格者が発表されました！ … P3
- 各ブロック会議の開催結果報告 … P4
- エアバッグ類集荷 / 依頼持込連絡方法の変更について … P5
- 2021年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業 11月出荷状況と上期累計 / 11月新車販売・使用済自動車発生台数 … P6
- 鉄スクラップ最新情報 … P7
- 行事予定 / お知らせ / 編集後記 … P8

## 年頭にあたってのご挨拶

令和四年 元旦

皆さま新年あけましておめでとうございます。

新しい年が皆さまにとって健やかで幸多い年でありますよう、心からお祈り申し上げます。

昨年も新型コロナウイルスの度重なる流行に悩まされた一年でしたが、同時に今まで当たり前と思っていたことも見直し、より良いやり方が無いかとトライしてきた年であったと思います。コロナ禍が去ったあとに、災いの中から福を見出す結果が残せるようにしたいものです。

さて、昨年は我々の業界にとって新車減産にともなう中古車市場の玉不足、金属相場の高騰と振れ幅の大きい市場環境の年でした。今年も同じような傾向が続くとの予想が多いようで、難しい舵取りが求められるところです。そしてさらに大きな課題として、カーボンニュートラルへの取り組みがあります。次世代自動車やCASE、MaaSへの対応もこの大きな文脈に含まれる要素ということになるのだと思います。

この点は私達の今後の事業に決定的な影響を与えるものと考えます。具体的には素材の再利用の促進、製品、部品のリユースの拡大、私達の事業自体の低カーボン化も進めていかなくてはならないと思います。また同時に個人の生活様式についてもここがすべてのベースになるわけですので、見直す年にしなければと反省を込めて考えています。

今年も機構として会員の皆さまと業界の発展のために、様々な取り組みをしていく所存ですので、ぜひよろしく願いいたします。

今年も元気でがんばって行きましょう！

一社) 日本自動車リサイクル機構  
代表理事 酒井 康雄



## 巻頭言

あけましておめでとうございます。

今年寅年です。寅は勇猛果敢な動物で古くから厄除けや疫病除けの象徴とされています。昨年はコロナ禍のなかで思うように活動ができませんでした。

2021年12月には機構の本部で久しぶりに対面での広報部会が開催されました。私自身、本部での対面会議は2020年2月が最後でしたので、皆様と顔を合わせることが出来て良かったです。

今年1年は少しでも新型コロナウイルスの感染者が少なくなることを願っています。また、新年を迎えて心機一転、健康経営やゴルフを練習して上達するなど、色々な事にチャレンジして頑張りたいと思います。

(広報部会 伊地知 志郎)

《編集・発行責任者》  
一般社団法人日本自動車リサイクル機構  
広報部会長 永田 則男

《お問い合わせ先》  
一般社団法人日本自動車リサイクル機構  
〒105-0004  
東京都港区新橋3丁目2番2号  
TEL: 03-3519-5181  
FAX: 03-3597-5171  
MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp  
H P: http://www.elv.or.jp/

# 関係機関の皆様より、年頭のご挨拶



経済産業省  
製造産業局 自動車課  
自動車リサイクル室長  
**金谷 明倫 様**

新春を迎え謹んでお慶び申し上げます。

また日頃より適正な自動車リサイクルの推進に御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は自動車リサイクル法施行15年目に際して、自動車リサイクル制度のあり方を1年間にわたって議論し、解体業界や他の方々から貴重な御意見を頂きました。

本年は報告書の提言を具体的な成果につなげるよう、資源回収インセンティブをはじめ様々な取組を推進し、自動車リサイクルの更なる発展に取り組むと考えております。皆様におかれましては、引き続き適正な自動車リサイクルについて一層の御協力をお願いいたしますとともに、貴機構会員各位の益々の御発展と御健勝を祈念いたしまして新年の御挨拶とさせていただきます。



公益財団法人  
自動車リサイクル促進センター  
専務理事  
**阿部 知和 様**

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日頃から弊財団の活動にご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。昨年も引き続きコロナ禍に翻弄され、厳しい年となりました。

本年は資源循環のさらなる推進のための施策の検討や、JARSの大改造の要の年となります。また、弊社としては情報プラットフォームを立ち上げ、業界関係者の連携を深める取り組みをスタートする予定です。

弊財団としましても、変化の激しい時代に対応しながらリサイクルシステムの安定運用に努めてまいりますので、ご協力をお願い申し上げます。本年の皆様方の益々のご発展とご健勝を祈念致しますと共に、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



環境省 環境再生・資源循環局  
総務課  
リサイクル推進室長  
**平尾 禎秀 様**

2022年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

一昨年より世界中が新型コロナウイルスという未曾有の事態に直面しておりますが、皆様におかれましては、感染予防など様々制約がある中、使用済自動車の安定処理のためご尽力いただいておりますこと深く御礼申し上げます。

2020年夏から議論を行った自動車リサイクル法、施行15年目の評価・検討につきましては、皆様のご協力のおかげもあり無事今年の7月に報告書としてまとめることができました。本制度について一定の評価をいただいておりますことは、皆様の本制度のご理解・ご協力の賜物と認識しております。今後はおまとめいただいた報告書を踏まえ、自動車リサイクルの更なる発展に向けて、議論を重ねて参りたいと思います。そのためには、皆様方の一層のご協力が不可欠ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。皆様方の御健康と御多幸をお祈りして、年頭の御挨拶とさせていただきます。



一般社団法人  
自動車再資源化協力機構  
代表理事  
**嶋村 高士 様**

新年明けましておめでとうございます。

平素よりフロン、エアバッグ類、リチウムイオンバッテリーリサイクルへのご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

近年のカーボンニュートラルに向けた電動化の進展や、新たな蓄電池開発、電動キックボード等の次世代モビリティ出現など、自動車業界は大きな変革のさなかにあります。貴機構では、いち早く各種取組を進められており、時代の変革に対して益々貴機構との連携が重要であると認識しております。

当機構は皆さまと自動車メーカーを繋ぐパートナーとして、本年もより一層の各種連携を図ってまいります。

貴機構の益々のご発展ならびに会員の皆さまのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

2021年12月15日(水)に第2回理事会、第3回ブロック長会議がFORUM S 5東洋海事ビルで開催され、今回はWEBも用いたハイブリッド形式での開催となりました。会議内容を一部ご紹介します。

### 【第2回 理事会】

第17期上期の事業報告及び収支報告の2つの報告が主な議案となりました。事業報告については、①組織の活性化、会員増強活動、②自動車リサイクル士制度、③自動車リサイクル法関連活動、④資源循環への取り組み、⑤自動車リサイクル高度化財団助成事業の取り組み、⑥優良事業者制度創設に向けた取り組み、以上5つの活動報告となりました。特に“自動車リサイクル士制度”については、初めてWEBを活用した新規講習会が開催されたこともあり、意見や質問が数多くありました。新規講習会の受講者数が多く業界内でのニーズがあることが感じられる反面、資格取得から5年後に行う更新講習会の受講率が低いため、「資格を持つことによるメリットなど、よりプレゼンスを向上させるための取り組みや分析が必要」との意見がありました。

### 【第3回ブロック長会議】

各ブロックからの活動報告が主な内容となりました。新型コロナの影響により、ここ1、2年WEBでの会議がスタンダードとなっていました。感染者数が一時に比べ落ち着いてきたため、対面やWEBを併用したハイブリッドでの形式による会議が徐々に始まってきているようでした。

また、更なる会員の増加や活性化を図る沖縄ブロックや、エアバッグ袋の再利用事業に注力している中部・北陸ブロックなど、それぞれのブロックによって活動に特色があり、それらを共有出来たことが大きなポイントとなりました。

各ブロックと支部に毎年度予算が割り当てられている「活動費」について、今期は消化状況が滞っており、対面会議における会場費・交通費に充てることや、ブロックでのぼり旗を制作するなど、活用事例の紹介がありました。更なる活動の活性化に向けて、有効に活用出来るよう各ブロックで検討を進めることとして閉会となりました。



【ブロック長会議の様子】

## 2021年度

## 自動車リサイクル士の合格者が発表されました！

## 02

全国8会場で開催された“自動車リサイクル士新規講習会修了試験”の合格者を機構ホームページで発表しております。

■合格者一覧はこちら→<https://www.elv.or.jp/media/20/20211220-2021zirigoukakur.pdf>

なお、こちらは氏名ではなく受講番号での発表となっておりますので、あらかじめご自身の受験番号をご確認くださいませようお願いします。合格者には2月中旬頃に「認定証」、「認定証カード」が順次送付されます。本資格の有効期限は取得日から5年後です。更新のタイミングが近づきましたら再度ご案内する形となりますので、更新のし忘れがないよう十分ご注意ください。



【認定証カード】



## 中国・四国ブロック会議の開催結果

### —更なる会員増強を—

11月22日に岡山市のサムライスクエアで開催され、コロナ禍で様々な活動に制約がありましたが、今回は対面での会議となりました。

機構本部の報告を行ったところ、特に“自動車リサイクル士制度”についての意見が多くあり、そのなかで、現在の取り組み状況やこの制度によって業界全体の社会的地位がより高められるようにして欲しいといった意見が数多くありました。

各県での近況報告では、在庫台数の減少について皆様懸念されていまして。また、まだ先の見えないコロナ禍で、リサイクル機構の支部というまとまりを活用して協調的なコミュニケーションを取れるようにしたいとの意見があり、更なる会員の増加の取り組みと併せて進めていくべきとして閉会となりました。



【会議の様子】

## 九州ブロック会議の開催結果

### —業界の雇用状況に強い危機感—

11月27日にWEBで開催されました。全国支部長会議(11月17日開催)での他ブロックの活動内容の共有や、それを基にした意見交換が行われましたが、今回、最も話題となったのが各会社での「雇用問題」でした。解体業界全体として、後継者問題や慢性的な人手不足、従業員の高齢化が常に取り沙汰されておりますが、年々新入社員の雇用も減少しており、かつ、入社後の勤続年数が短くなってきているため、会社のオーナーとして非常に強い危機感を感じているとのことでした。

これからは、性別や国籍等の固定概念を一新し、より間口を広げつつ、我々が常に感じている“自動車リサイクルの素晴らしさ・やりがい”をもっと業界外にアピールする必要があるとの意見がありました。「自動車リサイクル、引いては地球環境の保全には、会社(業界)を織りなしている社員の方がいるからこそ」との森田ブロック長の考えが印象的でした。

## 近畿ブロック会議の開催結果

### —イメージの転換を—

12月3日にWEBで開催されました。各支部では在庫数が減っているという報告が多くありましたが、そのなかで「これまでの考え方や方法にとらわれることなく、イメージの転換を図ることで苦境を乗り越える」といった意見がありました。例として、アルバイトから正社員への登用、マナー研修の充実、販売体制の見直しなど営業力を強化する取り組み紹介があり、コロナ禍で閉鎖的な考えに陥りがちですが、その考えを転換して新たな取り組みに繋げているのだということが感じられました。

最後に、自動車業界は大きな転換期に差し掛かっていますが、今後は脱炭素に関わる動きをより注視していかなければならないといった意見があり、解体業界自体も大きな転換期を迎えているのだという意識を強く感じられる会議となりました。



【会議の様子】





# 2021年度駆動用HVバッテリー共同出荷事業 11月出荷状況と今期累計

# 05

## 【2021年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業11月出荷状況と今期累計】

上段 11月出荷数 下段:今期累計【単位:個】

参加会社数(社)	プリウス 20	プリウス 30	プリウスα	レクサス CT200H	アクア / ヴィッツ	カローラアクシオ / フィルダー	レクサス GS450H	クラウン HV GWS204
35	28	62	1	0	64	0	0	1
76	279	534	11	0	365	1	5	6

クラウン HV AWS210	SAI/レクサス HS250H	カムリ HV	日産デュトロ / ブルーリボン	ノア/ヴィクシー / エスファイア	シエンタ HV	プリウス 50	不良品 A-C	合計
4	15	0	0	2	1	1	0	179
11	29	8	0	7	3	3	39	1,301

□2020 年度の結果・2021 年度事業説明資料はこちら→ <http://elv.or.jp/index.php?itemid=1740>

※セレナ C26 ジェネレーター共同出荷事業は予定数に達したため、終了しましたが、引き続き、リビルドコアとして機構会員特別価格(9月改訂)での買取を行っております。

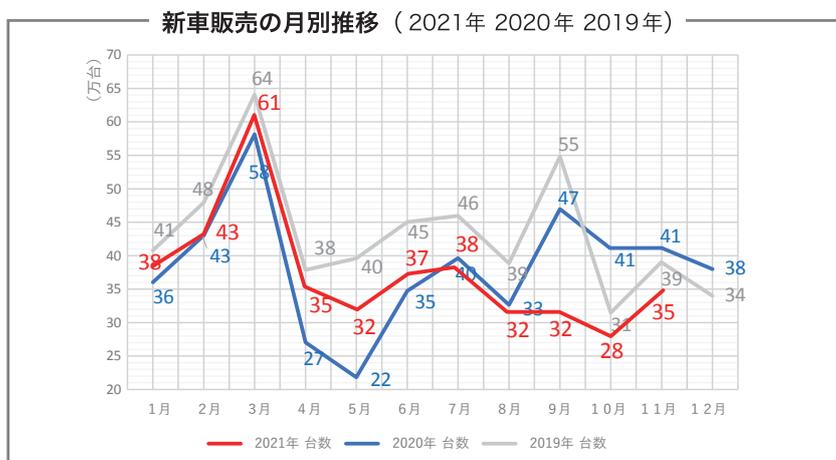
買取をご希望の場合は、アーネスト(TEL048-981-6384, 担当:川崎様・加藤様)までお問い合わせください。

## 11月新車販売・使用済自動車発生台数



# 06

### ■2021年11月度 新車販売台数 352,455台 (前年同月比85.6%)

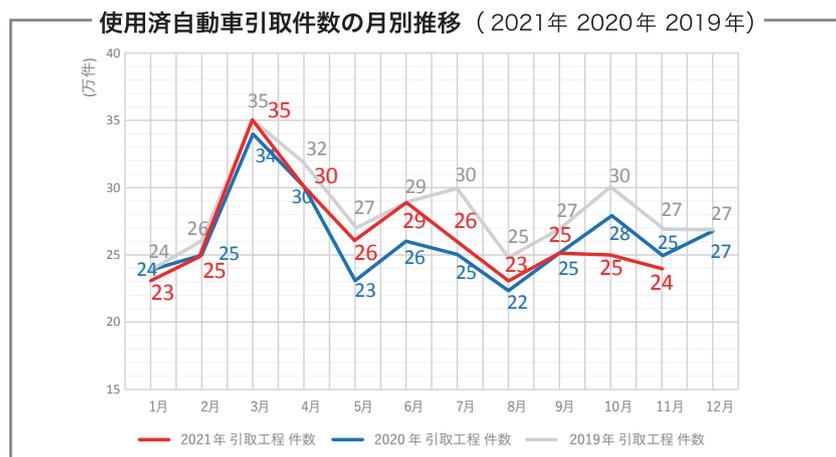


過去の/new車販売台数推移

年累計	台数	前年比(%)
2021年 (11月まで)	4,111,898	97.5
2020年	4,598,615	88.5
2019年	5,195,216	98.5
2018年	5,272,067	100.7
2017年	5,234,165	105.3

※出所:一般社団法人 日本自動車販売協力連合会

### ■2021年11月度 使用済自動車引取 (電子マニフェスト) 実施状況



引取件数
240,056件 (前年同月比 97.8%)
フロン回収工程
212,420件 (前年同月比 97.5%)
解体工程
248,573件 (前年同月比 98.2%)

※出所:公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

## 12月第3週(17日)の鉄スクラップ動向



## 12月17日の国内スクラップ炉前実勢価格 (中心値)

		H2	気配
関東	北関東	53,000～56,000	値下がり
	南関東	53,000～56,000	値下がり
	浜値	51,000～52,500	値下がり
名古屋		53,000～54,000	値下がり
関西	大阪	54,000～57,000	値下がり
	姫路	53,500～54,500	値下がり

## 国内の鉄スクラップ市場、値下げ広がり全国的に続落

電炉筋の間に12月16日、鉄スクラップ購入価格を値下げする動きが広がり、国内相場は全国的に続落する動きとなった。東京製鉄が同日、田原・九州・宇都宮工場の購入価格を値下げ。これに対応し、北海道を除く東日本、東海、西日本電炉が値下げ改定を実施。国内相場は概ね500円どころの続落となった。

海外・輸出市場に比べて国内相場に割高感があったことに加え、輸出減によって電炉向けの出荷が伸びたことなどから、入荷が上向いた電炉筋が引き合いを緩めた。また、上級スクラップ相場が大きく値下がりしていることも、H2などの下げを誘った。

輸出価格に対し国内相場は依然高値で推移しており、今後、さらなる値下げ改定が広がるとの見方が大勢。1～3月の高炉筋の鉄鉱石契約価格が前期比 48%安と大幅に下落することも、先安観が広がる要因となっている。ただ、市中発生・荷動きにバラつきがあり、電炉筋の下げ幅は小さく、依然として慎重な価格対応だ。

## ■韓国・現代製鉄、上級玉を500～2,000円値下げ

韓国・現代製鉄は12月第3週(16日)の日本産鉄スクラップスポット商談で、H2をFOB47,000円、HSを同55,000円、新断バラを同56,000円とした。前回からHSは500円安、新断は2,000円安となった。H2は据え置いた。

## 【関東地区】 相場続落、電炉筋500～1,000円下げ

関東市場の鉄スクラップ市況が続落した。12月16日、東京製鉄が田原・九州・宇都宮工場の値下げ改定を発表すると、この動きに関東電炉が即日反応。電炉筋の値下げが概ね一巡することとなった。H2の値下げ幅は500～1,000円。一部で上級玉のみ下げ幅を大きくしている電炉筋もある。H2炉前実勢価格は53,000～54,000円中心、高値54,500～56,000円見当に下落。H2浜値は51,000～52,000円中心、高値52,500円見当となっ

## 【東海地区】 下げ余地残り弱含み気配継続

名古屋地区の鉄スクラップ市況は引き続き弱含みムードにある。12月16日から東京製鉄・田原工場が12月で2回目となる値下げを実施したが、地区内の電炉他社も足並みを揃え全社一斉に購入価格引き下げに動いた。ヘビー類については、発生の薄い環境が慢性化していることに加え、10月末からの下げ局面で問屋筋が出荷を急いだことで、市中の鉄スクラップ在庫も出尽くした感がある。H2炉前実勢価格は53,000～54,000円中心。

## 【関西地区】 需要減退受け下げ余地残す展開

大阪地区の鉄スクラップ市況は12月後半入りにかけて一段安の展開となった。16～17日に電炉筋の半数が値下げ改定を行った後も、需要減退を背景に下げ余地を残す展開が続いている。特に上級品種は電炉需要が大きく減退したままの状況にある。各社、入荷の抑制に向けて下げ足を早めているが、他地域や輸出商談の価格に比べて大阪地区の相場は全体的に割高感が残る。H2炉前実勢価格は、54,000～56,000円中心、一部高値57,000円。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、12月17日午前時点のもの)

# 行事予定

## —令和四年1月の主な行事予定—



- 1月11日 (火)
  - ・ J-FAR (事例集) 定例会議
- 1月12日 (水)
  - ・ 第10回 広報部会
- 1月18日 (火)
  - ・ 第3回リサイクル技術部会

※急遽、日程の変更・延期の場合がございます。

## お知らせ

### 自動車リサイクル促進センター (JARC) より

#### 2022年度の自動車リサイクルシステム計画停止日のご案内

「自動車リサイクルシステム」では、例年、データやシステムの整備を行うために、稼働停止日を設けておりますが、来年度も下記のとおりシステムを停止させていただきます。

皆様にはご不便をおかけいたしますが、関連する方への情報展開等、ご協力くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

■停止詳細はこちら→ <https://www.elv.or.jp/media/20/20211201-2022keikakukadou.pdf>

なお、上記事項につきましては、既に自動車リサイクルシステムホームページに掲載しておりますので、よろしければそちらもご確認ください。

■自動車リサイクルシステムホームページ URL→ <http://www.jars.gr.jp/>

## 編集後記



明けましておめでとうございます。我々広報部会一同、今年も誠心誠意、ニュースレターを制作して参ります。ご支援よろしくお願い致します。

さて昨年の12月、ニュースレターの編集会議が機構本部で開催されました。対面での会議は1年と9ヶ月ぶりです。毎月リモート会議で顔を合わせているとはいえ、実際に会って行う会議は、人間の目と耳だけを使ったモニター越しの会議とは、やはりひと味違います。「やはり対面は違うね」とは言うものの、ここまでリモート会議が普及してしまうと、さすがに毎度集まって議論というわけにもいかなくなりました。リモート会議がしっかりと時代に定着してしまったからです。

そういえば、人前でマスクを外すのが恥ずかしい、怖くなったという人が増えているといったニュースが流れていました。マスクもしっかりと市民権を得たようで、コロナが沈静化してもマスクは手放せないアイテムになったようです。こうなると人間同士のふれあいやコミュニケーションの形骸化を危惧することすらも、もはや時代遅れな感覚なのかもしれません。

(広報部会 部会長 永田 則男)